

総合工学委員会 原子力安全に関する分科会
原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会
(第25期・第5回)

議事要旨

1. 日 時 令和4年6月30日(木) 10:00~12:00
2. 場 所 : 遠隔会議(主催会場:国立研究開発法人国立環境研究所)
3. 参加者(五十音順、敬称・所属略): 青井考、青山道夫、五十嵐康人、伊藤好孝、恩田裕一、木名瀬栄、篠原厚、柴田徳思、関村直人、高橋嘉夫、田上恵子、津旨大輔、豊田新、難波謙二、箕輪はるか、森口祐一、保田浩志、山澤弘実、(小委員会委員18名)、
オブザーバー: 滝川雅之、永井晴康、溝上伸也(WGメンバー3名)
4. 議 題
議事に先立ち、定足数を満たしていることを確認した。
 - (1) 前回(第25期第4回)議事要旨の確認(森口小委員会委員長)
 - ・第24期報告英訳、WGで知見紹介・話題提供があった。
 - (2) 委員の交代(森口委員長)
 - ・高橋知之委員の辞任を承認
 - ・保田浩志新委員の挨拶
 - (3) 第24期にまとめた報告の英文化の進捗状況(森口委員長)
 - ・全体的には進捗している。ただし、日本語の固有名称が含まれた部分については、英訳にやや難儀している。統一的な訳語が求められる。さらに精査が必要。
 - ・日本学術会議の「意思の表出」の手続き改正に関する説明があった。和文報告と英文報告の「内容同一性」が強まった。
 - ・全体の再度の精査を行うにあたり、協力をお願いしたい。
 - (4) ワーキンググループ・合同会合の活動報告
 - ・環境放出・拡散解析WG 海洋部分で青山委員、津旨委員に参画頂き、強化を図った。レビュー実施した。大気についてもレビュー実施。課題は前々回に整理を図った。文書取りまとめは行いたい。
 - ・データアーカイブズWG 活動を22期より継続。学会を通じたアンケート実施予定で本日の議題としている。
 - ・1/27実施したWGの議事概要紹介(伊藤委員) グーグルフォームでアンケート実施案を作成、試行を実施。案を(5)の議題で議論進めたい。
 - ・アーカイブス連絡会、福島伝承館訪問について紹介(伊藤委員) 民間測定の実動状況につき言及あり。10年を節目に活動終了、解散している団体が出てきている(難波委員)
 - ・福島国際研究教育機構構想(拠点構想)の概要紹介(森口委員長) 福島大学は複数の構成要素に参画(難波委員)、国立環境研も部分的に参画(森口委員長)。

(5) アーカイブに関するアンケートと実施計画について (伊藤委員)

- ・保有データ・試料についてのアンケート調査実施案の概要を紹介。実施依頼の対象は学会でなく、学会に所属する個人。学会を通じて、対象となる学会員個人あてに配布してもらい実施する。アンケートをお願いする個人あての依頼文に加えて、学会長あての配布を依頼する依頼文を別に作る。

- ・回答方法は煩雑さを避け簡便なものとした。測定データのみならず、公開先、測定試料の保管・保存・将来についても質問。無記名を原則。メールアドレスを回答した者のみ、別質問を設ける。←一番ほしいデータ (URL, DOI, 論文名) を答えるところが1つしかないので、複数入れられるようにしてほしい。また測定地点座標も入れられないか (恩田副委員長)。

→アンケートに入れ込めるか検討する。座標はデータファイルでもらう方がよい。

- ・各質問項目について詳しく説明があった。

- ・一般向けではないが、専門としない研究者は対象としている。将来的に民間個人へのアンケートにも転用する可能性がある。

- ・試料保管に関して、選択肢をどのようにするか。「個人保管」と「組織的保管」の間がある。所属機関で個人・研究室単位で保管、と中間の選択肢をいれるか。

- ・関連して試料保管について議論があった。「捨てられない」から保管という問題もあるのではないか。試料インベントリは明確にする必要があるが、このアンケートの想定を超えていないか。この問題は重要。多くの機関では組織的な保管は行われていないと想定される。

- ・学会への協力依頼文章について説明がされた。回答データは小委員会、WG内での検討以外に用いないとしたが、取り纏めて学術会議の報告等に使用したい (アノニマス化する) との意向は明記しておいたほうがよい。

- ・学術会議内の手続きを遵守する必要性あり (森口委員長)。学術会議と学協会との関係性についても配慮が必要。アンケートを行う動機と明確な成果目標が、上部委員会や学協会への説明に必要 (関村委員)。学協会向けには、アンケートの効用についてより明示的に。→アンケート結果の出口戦略も含めて年内には小委員会で詰めたい。

(6) 第25期の活動成果のとりまとめとそれ以降への継承について (森口委員長)

- ・WGのアウトプット

- ・24期のフォローアップ

- ・タイムライン 今期は2023年9月末まで

- ・筑波大の経験。過去と現在の状況の差があるが、知見の有効な活用が重要 (恩田副委員長)。

- ・事故を踏まえた安全施策に向けた知見の整理・取りまとめが必要 (山澤委員)。

- ・カーボンニュートラルに向けたエネルギーミックスにおける原子力の位置づけとの関連も意識 (森口委員長)。

- ・意思の表出のほか、「原子力総合シンポジウム」、「学術の動向」への投稿などによりWG活動の現状と課題を整理して紹介することも一案 (関村委員)。

(7) その他

- ・次回分科会は9月中。小委員会からのインプット待ち（関村委員）。次次回はおそらく来年1月ごろになる。
- ・英訳に形をつけたいので、8月下旬ないし9月初頭には次回小委員会を予定希望（森口委員長）。
- ・WGらしい議論展開の機会が可能であれば、小委員会とは別に開催を検討（五十嵐委員、森口委員長）
- ・アンケート実施案の宿題を詰めるため、アーカイブWGは小委員会より前の7月下旬～8月上旬実施で日程調整する。

配布資料

- 資料1 小委員会第25期第4回議事要旨（案）
- 資料2 小委員会委員構成
- 資料3 第24期報告英訳精査の進捗状況
- 資料4-1 ワーキンググループ・合同会合の開催状況
- 資料4-2 アーカイブズWG第25期第2回議事メモ
- 資料5-1 保有データ・試料についてのアンケート調査実施案について
- 資料5-2 アンケート実施依頼文案
- 資料5参考 2012年アンケート、配布先
- 資料 今期の活動成果のとりまとめの方向性

- 参考資料1 意思の表出等の作成手続について
- 参考資料2 意思の表出等の作成手続について（英訳に関する改正）
- 参考資料3 福島国際研究教育機構構想の概要